

令和5・6年度

菊池市教育委員会指定「学力向上」研究指定校
菊池市立泗水中学校研究発表会

研究主題

未来に向かって友と共に伸びゆく生徒の育成

～対話活動のできる、基礎基本の定着を目指して～



ご挨拶

本日は本校研究発表会に御参加いただき、誠にありがとうございます。職員一同心から感謝申し上げます。

さて、社会の変化の激しい時代を迎え、学校教育には子どもたちに持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育成することが求められています。そのような中、本校では、令和5年度から研究指定校として、夢や目標を持ち、日々精進していく生徒の育成をめざし、人権教育を根底に据えた教育活動を展開するとともに、学力向上の取組について研究を進めて参りました。

令和元年から始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、人々の価値観や意識を大きく変容させ、学校の教育活動にも大きな影響を及ぼしました。本校においても、スタンダードに取り組んできた教育活動の変更を余儀なくされ、蓄積してきた成果や手段・方策が失われ、止まってしまいました。そこで本研究指定をきっかけに、ポストコロナ時代に求められるニューノーマルへの移行に向け、取組を模索してきたところです。

研究についてはまだまだ不十分なところも多く、本日の発表会を経て、さらに深めていきたいと考えております。御参会の皆様には、忌憚のないご意見・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本研究会の開催にあたり、御指導・御支援をいただきました菊池教育事務所、菊池市教育委員会並びに関係の皆様に対し、感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

令和6年10月23日

菊池市立泗水中学校長 久米野 千晶

主題設定の理由

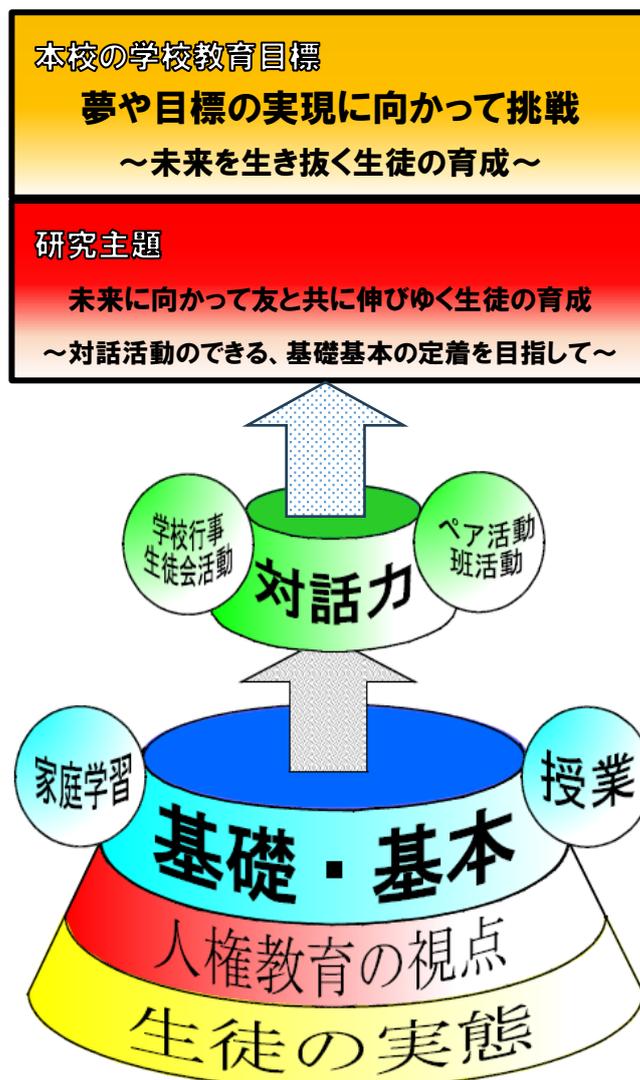
1. 本校の教育目標から

本校の教育目標の実現に向けて、日々の授業や学校行事の中で目標を明確にし、何をすべきか考え行動しようとする意欲や態度を育み、行動へとつなげる力の向上を目指している。また、自分の将来を考えると、仲間との関わりは不可欠である。将来の夢や展望を持ち、仲間と共に切磋琢磨することが未来を生きる力を大きく向上させると考え、研究主題を設定した。

2. 本校の生徒の実態から

本校の生徒の実態として、学力が十分に身につけていないことが挙げられる。その要因として考えられるのが学習意欲や学習習慣の低さである。学習が苦手な生徒でも、意欲的に授業に参加するためには、教師主体の授業ではなく、生徒主体の授業へと転換させていく必要がある。対話活動を意図的に設定し、生徒同士が互いの考えを伝え合うことで、意欲的に学習に向かう生徒が期待される。また、対話活動を意味のあるものにするためには、基礎基本の定着が必要である。授業を中心に基礎の定着を図り、対話活動へとつなげていくことが主体的に学び、未来を切り開く姿につながると考え、本年度の研究主題とした。

研究構想図



研究の仮説

家庭学習や授業等の教育活動を通じて基礎基本の定着を図ることで、生徒同士の対話活動が充実し、学力の向上につながるであろう。

研究の視点

視点1:基礎学力向上の推進(基礎学力向上部会)

- 授業部での取組
- 授業外学習部での取組

視点2:授業や特別活動における対話活動の推進(対話活動充実部会)

- 学習部での取組
- 生活部での取組

研究の実際

視点I:基礎学力向上の推進(基礎学力向上部会)

I 授業部での取組

(1) 学習規律の徹底

授業をよりよい学びの時間にするために、「泗水中学校学びのスタイル」を提示した。集中して学習に取り組むための心構えを生徒と教師の双方が意識している。全教室に掲示することに加え、全校集会で生徒会からも呼びかけている。

泗水中学校学びのスタイル	
授業 開始時	①準備着席 3分前入室 1分前着席 ②チャイム黙想 ③元気なあいさつ
授業 中	しっかりとした姿勢で 考えながら聴く <input type="checkbox"/> 話す人を見て聴く <input type="checkbox"/> 最後まで黙って聞く <input type="checkbox"/> 手を止めて聴く すすんで考え、 自分の言葉で話す <input type="checkbox"/> 相手をみて話す <input type="checkbox"/> 適度な声の大きさで話す <input type="checkbox"/> 丁寧な言葉づかいで話す いっしょけんめい考えて書く <input type="checkbox"/> 正しい姿勢で書く <input type="checkbox"/> 丁寧な字で書く <input type="checkbox"/> 大切なことは色ペンで書く
	授業 終了時

(2) 「めあて・まとめ・振り返り」の共通実施

教科を問わず、1時間の中で「めあてーまとめー振り返り」を軸にした授業づくりを行っている。校内研修において、本時で確実に身につけさせたい力を踏まえた「めあて」「まとめ」の整合性について改めて共通認識を図った。また、「振り返り」については、本時において生徒が「何が分かる・できるようになったか」「どんな変容があったか」「実生活に生かせること」「新たに疑問に思ったこと」等の視点を提示し、継続して取り組ませている。

(3) 基礎・基本の定着に向けた授業構成

「授業冒頭での小テストの実施」「単元を通した復習時間の確保」の2点を、各教科の授業に位置づけ、継続的に行っている。



理科では、毎回の授業のはじめに前時の基本的事項やポイントを押さえた5問テストを行っている。授業中にポイントを明示することで、生徒も安心して実験や5問テストに臨むことができています。



社会の授業において、ICTを活用した復習の時間を設けている。前時の重要語句を中心にクイズ形式で学習している。ゲーム感覚で取り組めるため、苦手な生徒も楽しみながら参加できる。

数学では、授業のはじめ5分間で小テストを行った。基本的な問題を5~10問程度出題し、定着の度合いを測っている。また、授業の要点や本時の学びを個人的に振り返る時間を確保している。

3年生数学 確認5問テスト 3年 / 組 〇 号 ()

① 根号を使わずに表しなさい	⑥ 次の数を $\sqrt{\quad}$ の形で表しなさい
② $\sqrt{12}$ 11	⑦ $2\sqrt{2}$ $\sqrt{8}$
③ $\sqrt{144}$ 12	⑧ $2\sqrt{3}$ $\sqrt{12}$
④ $\sqrt{169}$ 13	⑨ $3\sqrt{2}$ $\sqrt{18}$
⑤ $\sqrt{196}$ 14	⑩ $3\sqrt{3}$ $\sqrt{27}$
⑧ $\sqrt{225}$ 15	⑪ $2\sqrt{6}$ $\sqrt{24}$

<今日の授業の振り返り>

今日の授業の振り返りとして、前回の授業で学んだ内容を復習し、自分の理解度を確かめ、わからないところは先生や友達に質問し、理解を深めた。また、授業中のポイントや重要な事項をメモし、復習のために活用する。

2次方程式の2項式を利用して解く問題の解き方はよく判断できるように練習した。

英語の帯活動として、「毎日すらすら英文」を行った。既習の基本文をまとめたプリントを覚えた後、Q&A形式でペア練習する。英文に十分慣れた後、writingテストを行い、基本の定着を図る。



(4) 正答率40%未満の生徒へのアプローチ

「誰一人取り残さない授業づくり」を目指し、菊池市学力・学習状況調査等の結果から、正答率40%未満の生徒を把握し、各教科において対応している。数学の授業においては、少人数指導(1クラス3~5人程度)を行い、基本的な学習活動と個に応じたアドバイスができるようにしている。また、

校内支援員と教科担任とで情報共有を行い、特に習熟度の低い生徒のサポートを行った。加えて、前項目で述べた小テストでは、目標値に達していない生徒に対し、昼休みや放課後の時間で最低限押さえるべき学習内容の定着を図っている。



習熟度による数学少人数指導

習熟状況に不安のある生徒に希望をとり、小集団での授業を実施している。基礎的・基本的な内容について、反復練習を中心にしながら、個に応じた、きめ細やかな指導を行っている。



支援員による個別のサポート

本校の様々な授業において、支援員による机間指導を行っている。全体指導の中で困り感を感じている生徒に寄り添いながら、授業の理解を助けるアドバイスや支援を継続的に行っている。

II 授業外学習部での取組

(1) 放課後学習タイム

本校では、毎週火曜日・木曜日の放課後に25分間、個人学習の時間を設けている。生徒は、『e ライブラリ』（学習支援サービス）を活用し、その日に割り当てられた教科に関する自主学習を行う。「基本」「標準」「挑戦」の難易度から自分で選び、苦手を感じている分野を重点的に学習する。その日に学習した内容について、家庭学習で行うように呼び掛けている。



(2) BSTの実施

BSTとは、『Basic Study Time』の頭文字をとったもので、クラスマッチ形式で学力の定着を図る取組である。定期テストの2週間前から、5教科10問ずつの基礎的・基本的事項の問題を事前に配付し、クラスマッチ当日までの期間に学習を行う。生徒の学習の意欲を高めるために、定期テストの中にも類似問題を出题し、学級ごとに学習方法を工夫して臨んでいる。



(3) TRAILを活用した家庭学習

『TRAIL』は、本校の生徒全員が、学習の習慣化と基礎基本の定着のために、毎日取り組んでいる生活ノート兼自主学習ノートである。1年生は、学年単位で教科が指定され、復習のために活用している。2年生は、取り組む内容を自ら選んで問題を解いたり、授業で学習したことをまとめたりしている。毎朝、学級担任に提出し、学習内容に加え、「今日の振り返り」と「今日の家庭学習計画」を確認して、全ての生徒にコメントを書いている。日誌と自主学習が一体になっていることで、提出物に対する意識付けと家庭学習の習慣化を図っている。



上段には時間割等の記録、下段には自主学習を行っている。

視点2:授業や特別活動における対話活動の推進(対話活動充実部会)

I 対話活動の取組

対話活動の充実を図る場面として、「学習場面での対話活動」と「学校生活の中での対話活動」の2つの場面を想定した。学習場面での対話活動とは、各教科等での授業を中心とした対話活動のことである。また、学校生活の中での対話活動とは、学級や委員会等の生徒が所属する組織の中で行う対話活動のことである。いずれにおいても、教師が意図的に生徒同士の交流の場面を設定するものである。ここでは、学習場面での対話活動を「学習部」、学校生活の中での対話活動を「生活部」として取組を紹介していく。

II 学習部での取組

(1) 対話活動の工夫

①グループによる対話活動

各クラスで4～5名の学習班をつくっており、学習課題を解決するために対話活動を実施している。

下の写真は社会科の授業で、熊本県の人口分布の図表を読み取り、問題点を出し合っている様子である。

熊本県の人口分布にはどんな特徴があるだろうか??



②ペアによる対話活動

様々な授業の中で、近くの生徒同士で対話活動をする時間が設けられている。ペアでの対話活動として、英語・国語科の音読の例がある。

下の写真は国語科の授業で「幸福について」の議論を行っている様子である。

幸福は日常の生活で感じることで、幸福感はその積み重ねだよ。



③小集団による教え合い活動

教え合い活動を行うことで、教える側、学ぶ側の双方の理解がより深まっている。

下の写真は数学科の授業で、出題された証明問題の課題に取り組んでいる様子である。

これは「2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい」を使うといいんだよ!



(2) 円滑な対話活動を目指して

対話活動を行う中で、学習が苦手な生徒や言葉で表現することが苦手な生徒への手立てを取り組んだ。右の写真は英語のスピーチでの補助教材である。何を話せばよいか分からない場合や、言いたいがあっても英語でうまく表現できない場合に活用した。これらを活用することで自然な対話活動を行うことができた。



Ⅲ 生活部での取組

(1) GD タイム

GD タイムとは、「グループディスカッションタイム」のことである。出されたテーマに沿ってグループで話し合う活動を通して、自ら進んで考えようとする力や課題を解決しようとする力、話し合いを構成する力、コミュニケーション能力等を高めることを目標とし、放課後学習タイムの時間に実施した。



花いっぱいのお水町にするために私たちにできることって何だろう??

話し合い活動での役割→



(2) 1分間スピーチの取組

本校では、朝の会や帰りの会等の時間を通して、1分間スピーチの取組を行っている。特に重要としているのが、返しの時間である。互いを尊重し、より良い人間関係をつくっていくために、“聴く姿勢”と、“返しのメッセージ”を大切にしている。返しのメッセージはその場で記入し、発表まで行っている。

この1分間スピーチと返しの取組を毎日継続し積み重ねていくことで、お互いを尊重する意識を高め、卒業後もつながるなかまづくりも目指している。



スピーチ発表



返しの記入



返しの発表

(3) 生徒会活動

生徒会活動では、生徒会執行部を中心に、より良い学校を目指した活動を行っている。生徒会スローガン「声」をテーマに、お互いの声（考えや意見）を聴いたり伝え合ったりする活動に取り組んでいる。

① あいさつ運動（挨拶活性化 Week）

学校内外にあいさつの声が響き渡るよう、正門および生徒昇降口に分かれて取り組んでいる。



② 生徒集会

全校生徒が対話を楽しみながら各委員会の発表を聞いている。



③ アフターミーティング



生徒会執行部によるミーティング。生徒同士でアイデアを出し合い、生徒会活動の活性化につながっている。

④ 執行部 Teams

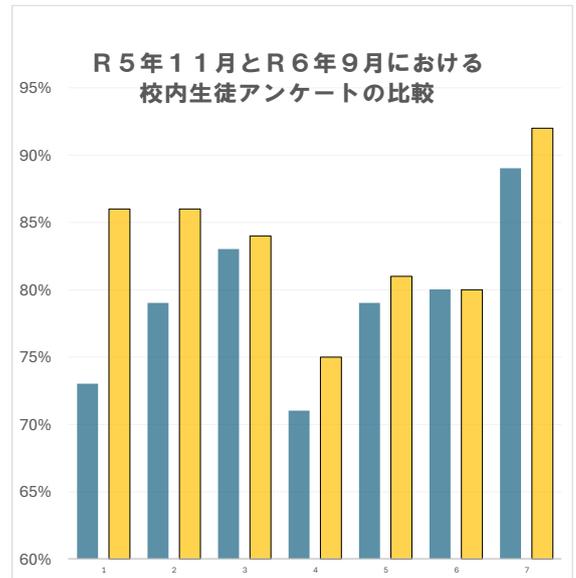


オンライン上で各委員会の動きや情報を共有し、意見の交流に役立っている。

成果と課題

1. 校内生徒アンケート・生徒質問紙より

1	あなたはわからない問題はそのままにせず、先生や友だちに質問していますか
2	あなたは家庭学習を計画的におこない、トレイルなどの課題を提出できていますか
3	授業のまとめや振り返りを通して、学習したことを理解しようとしていますか
4	あなたはスピーチを通して自分の考えを伝える力が向上したと感じますか
5	あなたはスピーチの時間に友達の思いや考えをしっかりと聞き、返しをしていますか
6	あなたはペア・グループ学習活動を通して、自分で考え伝える力が向上したと感じますか
7	あなたはペアやグループ活動で自分の意思を伝え、相手の意見をしっかりと聞いていますか



<令和5年11月と令和6年9月実施の生徒アンケート学校全体の変容>

(成果)

基礎基本の定着にかかわる質問①②③に関して、この1年間で伸びが見られた。また、対話活動に関する事項を見ると、スピーチに関する質問④⑤やペア学習・グループ学習に関する質問⑦で意識の高まりがあった。

(課題)

質問⑥から見られるように対話活動を通して、「思考力・表現力」が向上したと感ずることができた生徒の割合には変化が見られなかった。

質問項目	R5年4月	R6年4月
話し合いで自分の意見を積極的に発言していますか。	44.7	52.7 ↑
学校の授業以外に、平日(月～金)1日どれくらいの時間、勉強をしますか。(2時間以上学習した)	24.5	24.7 →

<菊池市学力・学習状況調査の生徒質問紙変容>

(成果)

全質問のうち、話し合いで積極的に発言している生徒の割合の伸びが一番大きかった。

(課題)

学力充実に関する質問項目をみると、家庭学習の状況で変容は見られなかった。

2. 菊池市学力・学習状況調査より

教科	R5年4月	R6年4月
国語	56.7	60.1 ↑
社会	46.5	48.2 ↑
数学	49.0	49.7 ↑
理科	48.4	52.4 ↑
英語	35.2	40.7 ↑

<学校全体の教科別正答率の変容>

実施時期	2年生	変容	3年生	変容
R5年4月	59.53	-11.39	51.98	+0.40
R5年12月	48.14		52.38	
R6年4月	50.02	+1.88	52.64	+0.26

<学年別の「基礎」内容の正答率の経年比>

(成果)

学校総体として、各教科とも昨年度の調査に比べ正答率が向上している。また経年比で見ると「基礎」的内容について正答率が向上している様子が見られる。

(課題)

全国の正答率と比較すると、差が大きく、特に1年生の入学後、半年間での全国との開きが大きくなる。

3. 考察

今回の取組を通じて、授業や諸活動において意識して対話活動を取り入れる活動や、対話活動を支える基礎・基本を定着させるための活動により、学びに向かう意識や、対話活動に対する意欲を向上させることにつなげることができたのではないかと考える。そして、そのことが学校全体の学びに向かう雰囲気を変え、学力・学習状況調査における学校総体の伸び、基礎的内容の定着として表れたのではないかとと思われる。また、数値として表すことはできないが、我々職員集団が同じ方向を向き、一致団結する雰囲気ができたことも、生徒の変容につながる大きな要因になったのではないかと考える。

しかし、数値的な伸びは見られるものの、全国と比較するとまだまだ差は大きい。今後は、自分にどのような力が身に付いたかをフィードバックさせるような活動も取り入れた対話活動の充実や、計画的に家庭学習に向かわせる習慣づけ、中学校入学早い段階での学習集団の形成などを図り、更なる学力の目指し、職員で一致団結し取組を進めていきたい。

おわりに

令和5・6年度菊池市教育委員会の学力向上研究指定を受け、生徒を主体的な学びに向かわせるための対話的な活動を取り入れた授業の研究を続けてきました。どうすれば学力向上に結びつく効果的な対話活動ができるのか模索し続けてきた結果、上記の結果のように子どもたちが対話活動の有効性を感じるようになってきています。しかし、まだまだ学力の三要素すべてを向上させるまでは結び付いていません。今後は、更にこの研究を進め、対話活動を通し子どもたちが、未来を生き抜くことのできる学力を身に付けられるような取組を進めていきたいと思えます。

最後になりましたが、本研究の推進にあたり、ご指導ご助言を賜りました皆様をはじめ、菊池市教育委員会並びに参観いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

研究同人

【令和6年度】

久米野千晶	水上堅悟	住永直哉	山下竹史	恒松圭子	赤星龍二	門田京子
弓掛貴明	石丸美穂子	中尾千恵理	高石智美	原浩太郎	吉開信昌	澁江公太
請野千洋	大塚芳基	山下祐一郎	金子武史	内田智久	井戸竣太	安武堅斗
三川千晶	米田匡輝	宮崎 翼	松本拓己	釘本桃花	猿渡正一朗	木村初夏
荒川淳子	財津香代子	松寄 恵	川上靖浩	嶋永ゆう子	鶴本優樹	原田海斗
並木圭子	豊岡秀敏	濱村理恵	森山真由美	堤由季乃	森永泰子	片山久美
林田由美子	池田裕美	リゾイスマズ				

【令和5年度】

山本幸二	岩谷 寛	宮川誠司	早田彰子	笠 智昭	平野 寛	宮本奈保
宮本由起子	石原愛佳	川口美子	赤星和哉	中野 葵	工藤美穂子	